

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次	Pages
➤ 事務局活動報告.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	5
➤ 会議・イベント等.....	6
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	6
➤ JRRN 会員募集中.....	7

## 巻頭書記

本号では、5月13日(水)に開催しました「第3回 JRRN 河川環境ミニ講座 ～環境流量からみえるアジアの風土性」、及び5月20日(水)に実施した JICA 国別研修(パキスタン)支援の概要を報告致します。

また JRRN 会員からの寄稿記事として、今月より「水辺からのメッセージ」を開始致しました。

引き続き、国内外の河川再生に関わる情報循環と人材交流を目指して参りますので、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

## 事務局活動報告(1)

### 第3回河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」開催報告

2009年5月13日、JRRN 主催による第3回 JRRN 河川環境ミニ講座「環境流量からみえるアジアの風土性」を開催しました。

ARRN 技術委員であり、「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」の作成にご協力いただいた筑波大学・白川先生にご講演をいただくとともに、JRRN 事務局の丹内より「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」の解説を行いました。

○日 時：2009年5月13日(水) 15:30～17:30

○会 場：(財)リバーフロント整備センター

※ 講演資料、講演録は、後日 JRRN ホームページにて公開予定です。

○講師1：白川直樹(筑波大学システム情報工学研究科 講師・ARRN 技術委員)

○講師2：丹内道哉(JRRN 事務局・財団法人リバーフロント整備センター)



開会の言葉

白川先生による「環境流量からみえるアジアの風土性」と題したご講演では、河川の自然特性、環境流量の概念をご説明いただき、人間活動の水利用によって生じる減水区間の「アンバランスさ」や、諸外国で用いられている環境流量の設定手法をご紹介いただきました。これらの設定手法を用いた、日本における事例はまだないそうです。

また、「乾燥」を「安定」、「湿潤」を「攪乱」という視点で捉え、文明の成立について大変興味深いご講演をいただきました。



白川講師によるご講演

JRRN 事務局からは、2009年3月にARRN/JRRNより発刊しました、「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」についての解説として、手引き作成までの経緯や、作成に際しての基本的考え方、更には手引き作成と共に取り組む河川再生事例収集に関する報告などを行いました。



JRRN 事務局の解説



参加者からの意見・質問



質問に回答する白川講師

講演後に行なわれた意見交換では、「環境流量」という言葉の定義、歴史的背景に関する質問、河川環境の再生への高い関心等、たくさんのご意見をいただきました。また、「手引き」の今後の展開に関する貴重なご意見を頂き、今後の河川環境再生の取組みに向け有意義な議論となりました。

このような意見交換ができる貴重な機会を今後も設け、皆様からの多くの意見を反映しながら JRRN の活動を発展させていきたいと考えております。

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

### **JRRN 河川環境ミニ講座の講演テーマを募集中!**

「私たちの活動を紹介したい」「こんな話題を聞いてみたい」など、JRRN 会員皆様からも河川環境ミニ講座の講演テーマを募集しています。本行事へのご意見やご要望がございましたら、JRRN 事務局までご連絡下さい。(info@arr-net)



## 事務局活動報告(2)

### JICA(国別研修)パキスタン「洪水危機管理」研修の受入報告

2009年5月20日(水)、JICA(独立行政法人国際協力機構)研修プログラムで来日しているパキスタン政府及び地方自治体関係者に対し、日本の河川環境改善の歩みや河川環境再生事例などの講義、及び現地視察の案内をJRRN事務局が担いました。

研修者より話題提供頂いた現地河川環境の概況、及び研修当日の様子を以下に報告させていただきます。

#### <研修概要>

##### ●午前:

- ARR、JRRN及び(財)リバーフロント整備センターの概要説明(JRRN事務局)
- 事業対象河川の概況説明(パキスタン側)
- 日本の河川環境改善の歩み及び河川再生の方策について講義(JRRN事務局)

##### ●午後:

- 都市河川再生事例として「隅田川」を視察

#### 【1】パキスタンの河川環境について

日本側からの講義に先立ち、まずは現地パキスタンの河川環境面の課題を把握することを目的に、首都イスラマバードを流れるライ・ヌラー川の河川環境について研修者より概要説明を受けました。

現地で特に河川環境面で問題となっているのは、家庭ゴミの河川への投棄、及び上流部の乱開発を主な原因とする河道内土砂堆積の二点とのことでした。



支川に貯まったゴミの山(パキスタン・イスラマバード近郊)



家庭ゴミが川を閉塞(パキスタン・イスラマバード近郊)



川は市民のゴミ捨て場に(パキスタン・ライヌラー川)



川の中へ土砂が堆積(パキスタン・ライヌラー川)

これらは、発展途上の国々において比較的共通している問題と言え、新たな法制度の導入や、流域住民一人一人のモラルを高める活動を継続して取り組んでいくとのことでした。

アジアで培った様々な経験を活かしながら、「多くの魚が生息する清流であった」と言うかつてのライ・ヌラー川への再生が望まれます。

## 【2】 研修当日の様子

研修当日の様子について、写真を主体にご報告させていただきます。



午前・室内研修の開会挨拶（JRRN 事務局長）



JRRN 事務局より説明



パキスタン側より説明



講義終了後の閉会挨拶



研修参加者との記念撮影



地域住民との交流 目の前で魚を仕留めたサギ  
(午後の現地視察・隅田川)



現地視察終了後の記念撮影（隅田川・月島付近）

午前の河川環境に関わる講義では、日本における河川環境改善の取組みとして、水質改善～親水性向上～生態系配慮～自然再生～川と人の関わりの再生という一連の歩みを振り返りました。合わせて、ARRN/JRRN 活動を通じて蓄積した国内外の河川再生の事例を紹介しました。

また午後の現地視察では、東京を代表する河川の一つである隅田川を案内し、下水道整備などにより着実に改善されつつある水質や、スーパー堤防などの防災強化と親水整備の現場を見学しました。

本研修者一行は「洪水危機管理実務」習得を目的とした来日でしたが、先に紹介した河川へゴミ投棄など河川環境面の多くの問題も抱えるため、今回は、河川管理や社会啓発を行う際の留意事項として河川環境分野の話題を提供しました。午前の室内講義及び午後の現地視察共に活発な質疑と意見交換が行われ、有意義な交流になったと思います。

今後も、こうした研修への協力も JRRN として担いながら、海外の河川事情を JRRN 会員皆様にご紹介すると共に、日本の素晴らしい取組みを海外に PR することにも微力ながら貢献して参ります。

(JRRN 事務局 和田彰)



## 水辺からのメッセージ No.1

(株) 建設技術研究所 国土文化研究所  
主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

錦帯橋: 後世に残された日本を代表する橋、55年ぶりの改修を経て



撮影：2006年5月 岡村幸二

- ◆ 錦帯橋のすばらしさは、木造アーチのリズミカルな美しさ、重厚な石組みの橋脚、そして背景の山並みと清流錦川の流れがまるで風景画のように納まっていることです。
- ◆ 2001年に架替工事が始まった現地では、橋面に変位計を数多く設置していました。「何のためですか」と聞くと、「橋のたわみ挙動などを早大生の協力で実験するのです」と。
- ◆ 1929年の観光絵はがき（土木学会販売）として、洪水時の錦帯橋の写真が載っています。

### ■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

## 会議・イベント等 (2009年6月以降)

### (ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

特になし

### (その他の河川再生に関する主なイベント)

■ 東京大学と清華大学による合同シンポジウム「河川・海岸における防災と環境保全の調和を目指して」

○日時：2009年6月4日(木) 9:00～17:30

○会場：東京大学本郷キャンパス 工学部1号館

○主催：東京大学工学系研究科

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1250.html>

■ 2009年度・河川技術に関するシンポジウム

○日時：2009年6月11日(木)～12日(金)

○会場：東京大学農学部弥生講堂

○主催：土木学会(担当：水工学委員会河川部会)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1270.html>

■ 第133回 河川文化を語る会「流域をつなぐ『旭川源流の碑』～伝え、つなぎ、続ける流域連携活動～」

○日時：2009年6月18日(木) 18:00～20:00

○会場：シェーンバッハ・サポー(砂防会館)

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1210.html>

■ 第134回 河川文化を語る会「企業の社会貢献活動から見る水の文化景観～ミツカン水の文化センター10年の活動から～」

○日時：2009年7月27日(月) 18:00～20:00

○会場：厚生会館(全国土木建築健保)

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1258.html>

■ 日本生態学会自然再生講習会「あなたにもできる自然再生：生態学の視点から」

○日時：2009年8月1日(土) 13:30～17:00

○会場：東京大学農学部1号館8番教室

○主催：日本生態学会

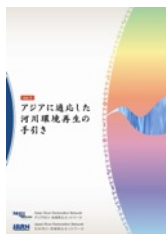
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1264.html>

## 冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)

・価格：無料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

■ 水辺のミュージアム vol.2 (2009.1 発行)

・発行：(財)リバーフロント整備センター

・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館を紹介した冊子「水辺のミュージアム」の第二弾が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。 電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

# JRRN 会員募集中

## ■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。  
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

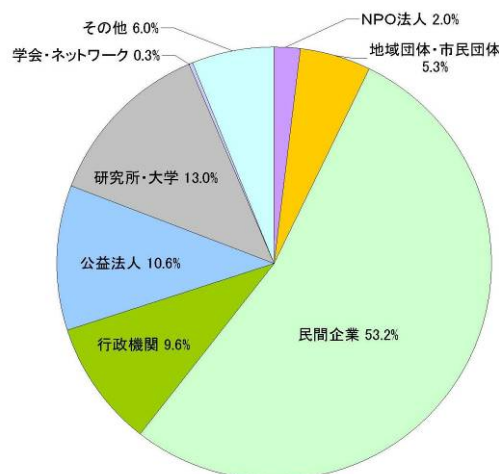
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

## ■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009年1月31日時点の個人会員構成

## JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 <sup>※1</sup>	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 <sup>※2</sup>	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 <sup>※3</sup>	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 <sup>※3</sup>	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 <sup>※4</sup>	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 <sup>※5</sup>	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 <sup>※6</sup>	◎	△ <sup>※7</sup>	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 <sup>※8</sup>	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 <sup>※9</sup>	◎	×	×

## 【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局 ※2009年6月1日より事務所が移転しました  
 財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内  
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 ロフテー中央ビル7階  
 Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net) URL: <http://www.a-rr.net/jp/>